

かつらがわ
大津市立葛川小・中学校
学校案内

ふるさとから、
広がる未来。

大津市全域から
通える公立学校

小規模特認校



小規模特認校制度を利用した入学について

1. 小規模特認校制度の概要

安曇川上流に位置し、自然豊かで特色ある教育活動を実践する大津市立葛川小・中学校は、大津市全域から児童生徒の通学を可能とする「小規模特認校制度」の認可を受けています。

2. 小規模特認校制度による就学の条件

- (1) 大津市内に住所があること。
- (2) 継続的に遠距離通学を行えること。
- (3) 学校の特色ある教育活動を理解し、学校行事やPTA活動、地域行事に参加、協力できること。

※ 転入学をご検討されている方は、毎年6月、9月に実施する学校説明会にご参加ください。

募集についての詳細は9月1日に本校ホームページに掲載予定

ご不明な点がございましたら、学校代表まで電話、またはメールにてお問合せください。

葛川（かつらがわ）・久多（くた）

KCLプロジェクト

大津市立葛川小・中学校へ通う児童生徒は、児童生徒数の減少による危機から母校を守るため、知ってもらい [Know]、来てもらい [Come]、住んでもらう [Live] 活動『KCLプロジェクト』を推進しています。

<https://kcl-project.com/>



地域の魅力を発信



天然染素材の商品開発



伝統の筏流しを再現



福祉活動
推進校
2018



ボランティア・
スピリット・
アワード
2019



トム・ソーヤ
スクール企画
コンテスト
2021



日本水
大賞
2022



キャリア教育
推進連携
表彰
2023

来校記念スタンプ

ぜひ一度、
学校見学に
お越しください。

かつらがわ くた

葛川・久多では、移住を促進しています。

夏には登山・ハイキング客で賑わい、川では沢登りや、アマゴ・イワナ・アユなどの渓流釣りも楽しめる葛川・久多地区。四季折々の豊かな自然に包まれて暮らせます。



「葛川まちづくり協議会」、「久多里山協会」が空き家の紹介や移住に必要な情報提供をサポート。

*葛川小・中学校は、京都市左京区久多の児童生徒も受け入れています。

葛川まちづくり協議会

<https://www.katsuragawa-shiga.com/>



久多里山協会

<http://kutanosato.net/>



アクセス・お問い合わせ



大津市立葛川小・中学校

〒520-0476 滋賀県大津市葛川中村町108-1

TEL: 077-599-2154 (小学校)

077-599-2007 (中学校)

Mail: ktr-e@otsu.ed.jp

HP: <http://www.otsu.ed.jp/ktr-e/>



ふるさとで育む、未来力。

四季折々の自然にふれながら過ごす日々は、

一つひとつ、ふるさとを心に刻んでいく、かけがえのない時間。

同じふるさとを共有する小学1年生から、中学3年生の仲間たちと、

豊かな自然の優しさも厳しさも味わいながら、

地域の人たちとつながり、支え合って、たくさんの経験を積んでいく。

葛川でのあらゆる出会いや体験が、

「未来の創り手となる力」に変わります。

ふるさとを想う心が育つほど、たくましくなっていく。

そして、一人ひとりが社会でいきいきと活躍する、

未来の創り手へと成長していけるように。

「心を育て、人をつくる」 めざす人間像

1 ふるさとと生きる

郷土に誇りと愛情をもち、
ふるさとを愛する人

2 自ら学ぶ

自ら学び、進んで
活用できる人

3 人とつながる

仲間と共にたくましく
生きる人

一人ひとりに寄り添い、豊かな自然を活かし、社会へとつながっていく教育。

「小規模特認校」である特徴を活かした、学びに向かうきめ細やかな指導をはじめ、葛川ならではの“ふるさとを五感で体験する授業”や、地域、企業とのつながりを大切にする経験の数々。ふるさとを大切に想い、未来を想像する人間性を培います。

個性を育み、絆を育てる1日

一人ひとりが目標を決めて、自ら進んで学習できる環境づくりに配慮。個々にとって最適な学びができるように、きめ細かな指導を実践しています。横のつながりだけでなく、小学生・中学生の交流も日常的に。同じふるさとを共有する仲間としての絆を育みます。

少人数のきめ細やかな
学習環境

学級の人数が少ないので、
授業中に居眠りができません。

先輩後輩の関係はゆるく、
学校のみんなが仲間になれる場所です。

異学年との交流や
小中合同授業

オンラインによる
教室を超えた繋がり

ランチルームで食べる給食が
温かくて美味しいです。

校舎に鳥が入ってきます。
敷地にへびも入ってきます。
虫はあちこちにいます。

学年を超えて休み時間に遊んだり、
行事で関わったりすることが多いです。

山間の四季にふれる1年間

安曇川のフィールドワーク、森林探索、農業体験、雪遊びなど、1年を通じ、葛川の四季の移ろいを五感で体感します。知識として学習するだけでなく、自然とのふれあいや体験、地域行事やPTA活動、山間に集う仲間たちと心を響かせあうことでふるさとを想う心を養います。

自然から学ぶ
森林整備や苗植え体験

地域の一員として
ともに地域を活性化する行事

四季の移ろいを感じる
山間のとき

台風による川の増水や、
大雪で休校になることが
あります。

未来が広がる9年間の学び

地域の方々と一緒に地域の魅力を発信する、葛川・久多を知ってもらい〈Know〉、来てもらい〈Come〉、住んでもらう〈Live〉「KCLプロジェクト」を実施。さらに、企業と協働で安曇川流域資源を活かした情報発信や商品開発などを進め、起業家精神の育成に努めています。

川遊びや地域探検、
記憶に刻む原体験

仲間と力をあわせて
向き合う地域課題

少人数なので、生徒会長、委員長、
部長といった役職を担う
経験ができます。



異学年との交流や
小中合同授業

自分の思いを大切に、みんなと学ぶ

先輩後輩の関係はゆるく、
学校みんなが仲間になれる場所です。

ランチルームで食べる給食が
温かくて美味しいです。

オンラインによる
教室を超えた繋がり

スクールバスや校舎の窓から
山や川の景色を見ていると、
気持ちが落ち着いてきます。

学年を超えて休み時間に遊んだり、
行事で関わったりすることが多いです。

地域の一員として
ともに地域を活性化する行事

四季の移ろいを感じる
山間のとき

少人数なので、生徒会長、委員長、
部長といった役職を担う
経験ができます。

仲間と力をあわせて
向き合う地域課題

ふるさとから、広がる未来を創造する

ふるさとの未来を
社会と繋がり創造する

葛川小・中学校から未来に向かって

卒業生の声

KCLプロジェクトを通して、様々な技術や知識を持った大人の方と出会うことができました。プロジェクトは同級生とチームで進めるので、仲も深まり楽しい時間を過ごせます。私は、地域活性化について真剣に学びたくなり、進学先を選びました。将来、葛川に戻って生活し、山間地域のためにできることをしたいと考えています。(樋口翼咲/2022年度卒)



京阪と湖西線を電車で乗り継ぎ、スクールバスで葛川中学校へ通学しました。日の昇らないうちから家を出発し、車窓から琵琶湖に映る日の出を眺めていた日々が懐かしく思い出されます。3年間の登下校で早起きの習慣が身につく、今でも朝には強いです。卒業後も、先生や保護者、地域の方に温かく接してもらい、歓送迎会や地域行事、文化祭や運動会に参加しています。住んだことのない葛川のことを、自分の地元だと感じています。いつでも行きたくなるような学校です。(奥田高虎/2020年度卒)



葛川は田舎ですが、市街地へのアクセスが良く、生活しやすい通えるド田舎です。夏休みには、涼むために、毎日友達と川へ遊びに行っていたことが思い出深いです。中学校卒業後は国立高専に進学し、都市工学を専門的に学んでいます。中学校時代に培った行動力と基礎学力で、部活動の部長や、学年上位の成績を修めることができました。土木事業のコンサルティングに興味があり、国立大学編入後、将来は技術者となって就職しようと考えています。(小谷朝日/2019年度卒)



私は京都市左京区久多という地域からスクールバスで通っていました。中学校卒業後、人のたくさんいる街で暮らすようになり、里山の風景がときどき恋しくなります。葛川小・中の魅力は、少人数だからこそ、自分達を中心となり、責任感を持って行事や地域活性化の取組みを進めていく力が鍛えられることです。中学時代に身につけたリーダーシップが、現在とても活かしています。(椎葉絢香/2019年度卒)



これまでに協働した企業の方の声

田丸印房 五代目 田丸琢

葛川の四季や、伝承に登場する河童をモチーフにしたスタンプの制作に携わりました。一般的な地域連携に留まらず、近隣商業組織を巻き込み、実体経済を含めた学びの機会が素晴らしいと感じています。葛川小・中学校の取組みが、全国の過疎地域のモデルに発展することを願っています。



リバー・ヴィレッジ 代表 村川友美

私たちリバー・ヴィレッジは、子供たちが水資源に着目し「何が地域のためになるだろうか?」と検討するサポートを行っています。「地域資源」×「事業」に対する理解を深め、子供水力発電の開発を進める中で、子供たちの大きな成長を感じています。



イラストレーター 西尾界太

地域の伝承に登場する河童の「ガワタロウ」のポスターやスタンプ、フィギュアのイラスト制作に携わりました。中学生はイメージを一生懸命に伝えてくれ、一緒になってキャラクター開発に挑戦できました。子供たちには、楽しみながら力を尽くし、クリエイティブに成長して欲しいです。

